

ぶらりと 大宰府に 行ってきました part3



西鉄都府楼前駅

政庁跡から南に歩いて朱雀大路に出ます、御笠川に沿って、西に「西鉄都府楼前駅」を目指します。駅前から水城東門礎石を循環してるコミュニティバスに乗りました



東門 礎石



水城大堤之碑

『日本書紀』天智天皇 3(664)年に「筑紫に大堤を築きて水を貯えしむ。名付けて水城と日」と記述が見られます。
唐・新羅の攻撃に備えて全長 1.2 kmにわたり築かれた国家レベルの防衛施設

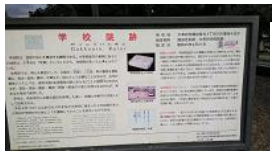
ますらをと思へる我や
水茎の水城の上に涙拭はむ
大伴旅人 卷六・九六八



凡ならば
かかもせむを
恐みと
振りたき袖を
忍びてあるかも
児島娘子
卷六・九六五

大伴旅人は天平 2(730)年に大納言として都に戻る際水城に見送りに来た、官人達に交じって遊行女婦がおり別れに際して彼女が贈った歌とそれに答えた大伴旅人の歌

広島に帰る友達と 水城で別れて、飛行機の時間まで又、政庁付近学校院跡のバス停まで、コミュニティバスを乗り継ぎ戻りました

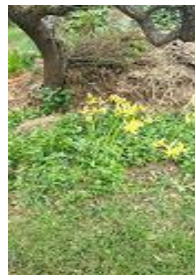


学校院跡のバス停で下車して案内のしおりを手に山上憶良の碑を探します、学校院跡の側とありますがなかなか見つかりませんでした。



観世音寺

学校院は西国の役人を養成する機関



憶良の歌碑を見つけ、次は田舎道を筑紫で崩御された斉明天皇追悼のために天智天皇が創建した観世音寺に急ぎます夕方になり、バスの時間を気にしながら市役所前の憶良の歌碑まで歩く事にしました

子等を思ふ歌
瓜食めば 子ども思ほゆ
粟食めば まして俵はゆ
いづくより来たりしもの そまなかひにもとなかりて安眠しなさぬ
反歌 卷五・八〇二
銀も 金も玉も なにせむに
まされる宝 子に及かめやも
山上憶良 卷五・八〇三



春されば まつ咲く宿の梅の花
ひとり見つつや春日暮らさむ
山上憶良 卷五・八一八

市役所前から大宰府駅前で乗り換え福岡空港までバスでスムーズ行きました前日より頑張っ
て歩いたので帰宅後ビールはかくべつでした

市役所前の歌碑